平成 12 年 1 月 31 日

区民の声を行財政改革に活かす
第３回『ホット・ほっと区民集会』開催

本日31日（月）午後2時から、豊島区立生活産業プラザ（東池袋１丁目 20）多目的ホールで、「第3回ホット・ほっと区民集会」が開催された。区長が直接区民の意見や要望を聞き、コミュニケーションを深めることを目的とするこの集会は、昨年7月、11月に続き、今回で3回目になる。

今回のテーマは「行財政改革」。区では、深刻な状況が続く区財政の健全化を図るため、平成12・13年度を「行財政緊急再建期間」と位置付け、行財政改革を推進することとしている。区民生活にも直接・間接に影響が及ぶことが予想されるテーマに、会場には 67 人の区民が詰めかけた。

開会にあたり高野之夫区長は、「開かれた区政が私の基本。行財政改革についても、現状をわかりやすく説明し、情報を広く公開しながら、区民の皆さんと一緒に考えていきたい。財政の健全化を成し遂げなくては、新たなニーズに対応し、地域の特性を反映した個性ある施策を展開することはできなくなる。区民の皆さんの声を活かし、発想の転換をしながら立ち向かっていく。」と挨拶した。

区側から「財政白書」と「行財政緊急再建計画」について説明を行った後、いつものように区長自らが集会の進行役も行い、区民からの意見や疑問を受ける区長は、最初から最後まで椅子から立って応じた。

集会の中では、「エレベーター乗務員の廃止を聞いたが、行革の一環なのか」「職員の削減を他団体との比較で示してほしい」「新たな小学校の建設は計画どおり進めるのか」「商業地路上の看板は汚いし、危ない。なぜ罰金を適用しないのか」「4月の組織再編はどんな点で区民にメリットがあるのか」など、厳しい意見が次々に出された。

また、「無料の高齢者施設の利用は一定程度有料にしてもよいのでは」「区立学校の空き校舎の利用方法を広げたら」「清掃環境部をつくると聞くが、環境だけで部が必要だ」「町会の役割の見直しを」などの提案も出された。

区民から提案が出されると会場から拍手が沸く場面もあり、活気ある集会となった。

参加した区民からは「こんな機会をもっとつくって欲しい」「集会では時間が限られているのでしかたないが、事業を見直すのだから、その理由を説明するなど、情報公開に力を入れて欲しい。」との声が聞かれた。

詳細：広報課長